

同窓会館建設にむけて

湖陵同窓会副会長 本間 秀一

年々歳々花相似たり
年々歳々人同じからず

時の流れを感じさせる私の好きな詩の一つです。

かつて我々の世代に、湖陵に長き三〇年、と声高らかに歌った応援歌も、歌い継がれ年輪を加えて今では、湖陵に長き八〇年――

まさに隔世の感があります。さて、釧中が第一回の卒業生を送り出したのは遠く大正七年のこと、以来、釧中・釧高・湖陵を通じてここに集まり、こを巣立つ卒業生は、およそ二万人になります。

これら卒業生・同窓生は、それぞれの時代の中で、時には避けがたい時代に翻弄されつつも確かな人生を生き抜き、それぞれの歴史を刻み、刻みつづけています。同窓としての強い絆ともなっています。

現在、二万人の同窓生は、一勿論数多くの物故者もいますが、全国あらゆる所で、あらゆる分野に亘って活躍されていることは今更、言うを俟ちません。これも偏々に歴史の中で培った伝統のあらわれでもありません。

私ども同窓会の運営に携わるものとしては、この古き良き伝統を如何に、永遠に「持続」させることができるか、しかも決して固陋な伝統主義に陥ることなく、更に新しい観点から磨き上げることが出来るか、同窓会づくりに一層努力したいと思っております。

同窓会々員の諸兄、諸姉におかれましても、こうした同窓意識の増幅のために益々のご協力とご理解をお願いする所以です。

近年、東京始め札幌など各地の同窓会が会員数も増え、年々活発な活動が行なわれております。それと同時にこうした活動内容

を背景に同窓会館建設の機運が盛り上ってきております。

我々の歴史を集約させ、先達の遺産を保存し、湖陵の存在感を世に示し、更に未来への発信基地として機能させたいというのが同窓会館建設の趣意であります。

同窓会館の建設については、かつて昭和五十五年頃、組村会長時代にも構想化され具体化された経緯があります。この時は、湖陵創立七〇周年の記念事業の一つとして総会に於いて承認され、会館建設小委員会も設置されました。

構造から内容、実施設計段階まで進行し、一方では募金実行委員会も設置されて各期毎に募金活動が行なわれ、寄付帳への記載ばかりでなく、実際に募金を行った期もありました。

然しこの時は、資金の問題や管理上の問題、建設予定地の選定や緑ヶ岡に聳え立つ近代的な新校舎の建設に向けて、ほぼ同時進行の形で運動が展開されたため、結局は新校舎建設運動が先行する所となり、会館建設は一時止ということとで今日に至りました。

今や、新校舎も数年前に完成し現役の諸君も名門湖陵の誇りを持って、のびのびと青春を謳歌しております。

同窓会としては再度、同窓会館の建設に向けて始動すべき時期と考えております。すでに準備段階を終え、各関係機関への折衝も開始いたしております。

諸兄、諸姉のお力なくして、到底達成できるものではありません。何卒皆さまの深いご理解とご協力を賜りたく、お願い申し上げます。最後に会員諸氏のご健勝を心からお祈り申し上げます。



変化に対応できる実力を

教頭 福井 誠一

日頃、同窓会の皆様には本校教育に對しまして多大なるご支援をいただき誠にありがとうございます。心から感謝を申し上げます。

さて、四月に新入生四四六名を迎え、本年度も順調に教育活動がすすんでおります。過日行われまして高体連・高文連の大会では各部が善戦して好成績を収め、十二の部が支部を代表して全道大会に駒を進めました。さらに、全道大会では本校生徒のもつチームワークや集中力をいかに発揮し、柔道(女子個人、弓道(男子個人、ハンドボール(女子)、囲碁(個人)、放送が優勝して全国大会に出場することになっております。

このように、例年にも増して目ざましい成果が上りました。日頃の教職員のためまい指導はもちろんです。先輩である同窓の皆様が宮々と築きあげてきた「文武両道」の校風によるものと確信しております。

進学につきましては、今春の合格状況は国公立大学では一三四名で例年並みとなり、不況下、地元

志向の強い中で私立大も一二六名と健闘しております。新校舎に移って三年が経過しました。いま、生徒たちは恵まれた環境の中で精一杯力を発揮し、将来の自己実現にむけて努力しており、教職員も総力を上げて指導にあたっているところです。時代は急速に変化しつつあり、特に国際化、高齢化、情報化の進展には目を見張るものがあります。学校も昨年秋季より月一回の土曜休業となり、学校週五日制の完全実施にむかって変化しております。このように未来社会の予測ができていくに現在ですが、いづれにせよ持てる素質を十分に伸ばし、実力をつけることが将来、社会のどの分野に進むにしてもリーダーとなるべき人間として必要不可欠なことと思っております。父母、同窓、地域の皆様にご感謝しつつ、その期待に十分応えらるよう努力して行きたいと考えておりますので、今後なお一層のご支援をお願い申し上げます。

今回はご挨拶を、同窓会には副会長、学校には教頭先生に特にお願ひして寄稿いただきました。(編集委員会)

各支部だより

東京支部

東京支部から

湖陵同窓会東京支部幹事長補佐
湖陵七期 山田康評

東京支部はこととして四回目の総会となりました。しかし、設立総会が三百名も集まったのに、年々半減し、栗村会長をはじめ役員一同は、危機感をもって「総会の活性化」に取り組みました。当日の模様を述べさせていただきます。

ことしは、四月一〇日、会場の半蔵門「ダイヤモンドホテル」で午後一時から始めました。総会を取り仕切る幹事を湖陵二七期の平井淳司君が引き受けてくださり、実に同期のお仲間一五名が駆け付けて、百名を超える総会を開くことができました。

釧路からは久本会長と関口幹事長、そして札幌湖陵会からは栗村会長もご出席してください、ご祝辞をいただきました。議事は、釧

路中一三期の波岡先輩の名議長の進行により無事に終え、釧路二期の原大先輩の乾杯の音頭で、懇親パーティーとなりました。原さまには、設立総会の時も駆け付けてくださり、釧路中、湖陵の伝統と歴史が、静かに佇んでいるだけで同窓生には察せられ、感激してしまいます。ことしはピアノを湖陵一八期の三上さん、指揮を同二七期の宮下さんで、参加者声を揃えて「校歌」を歌い、一人ひとりが十代の学生に戻りました。宴は歴代の応援団長が壇上に立ち、エールに拍手、たいへんな盛り上がりの中に時間切れとなってしまいました。これからの東京支部の活動としては、「釧路時代の私の期」の前後どのような方が、希されていますか

「若い同窓生が参加できる総会に変身できないか」「会報を定期的に発行してほしい」などなどといった会員の生の声を汲み上げ、要望に応じていきたいと思っております。また、釧路の本部、札幌の支部で実行しているように「総会開催日の固定化」や「総会

幹事期の持ち回り」も検討し、実施したいと思っております。そして、釧路の本部、札幌をはじめとする各支部とも連絡、連携を密にして、湖陵同窓会の発展に寄与できる東京支部となるよう、微力を尽したいと存じます。



あたたかなふれあい



太陽のように
明るく暖かい真心で
良い品をより安く
ご奉仕する

セオチェーン

妹尾商店
新橋大通1丁目 ☎25-5345

新富士ストア
新富士駅前 ☎51-3467

愛国ストア
愛国西3丁目 ☎36-3399

白樺ストア
白樺台1丁目 ☎91-5423

昭園ストア
昭和北1丁目 ☎51-8853

さつぽろ地下街オーロラタウン
ギフトブティック

ペルソナ

オーロラプラザ前 ☎(011)241-3830

●味が自慢の本格派レストラン●

ステーキハウス アポロン

新橋大通1丁目妹尾商店向 ☎25-7023
営業時間/AM11:00~PM9:00

帯広支部

近況

会長 河崎 弘

帯広支部の近況をお知らせ致します。去る3月7日(日)正午から、帯広グランドホテルで、第31回の湖陵・江南合同同窓交礼会を開催、盛會裡に終了致しました。会員が一同に会する機会はこの合同交礼会と、これに先立って行われる湖陵同窓会十勝支部総会で、年に一回です。数年前に発行された湖陵同窓会名簿で拾い上げた在十勝の同窓会は約一六〇名、返信はその約半数。若い年代の同窓生の関心の低いのが悩みの種ですが、各期に一人か二人の現況では止むを得ないものと考えています。現有会員で、会の高令化に何とか歯止めをかけられないものかと幹事一同知恵を絞っていますが、当分の間は、十勝支部の中核である湖陵初期から二〇期にかけて御指導を頂いた恩師を巾広く御招待申し上げ、先生との繋りから会員の関心を高め、出席率の向上を図っています。先生をだしに一寸虫のい

い方法ですが、先生方の中には江南高とも何等かの繋りがあったりして、合同交礼会は謝恩会・両校の交歓会といった渾然とした風情で仲々趣きがあり、結構楽しく賑やかな会となっております。釧路を離れてから、長い年月を経て耳にする本部会長はじめ恩師のお話しは、忘れかけていた故郷、母校の想い出に、一時しんみりとさせられます。そういえば、本年一月十五日の釧路沖地震、当地も相当の被害がありました。刻々と伝わってくる地震情報で、釧路沖が震源地で、都市の機能に重大な影響が及んでいることを知り、一刻も早い復旧と罹災された方々の傷の快復を願っておりますが、久本会長から生の状況をお聞きし、想像以上の被害状況が、復旧のためのボランティア活動激しい環境の中にも心暖まる人間の触れ合いを知り、「ホット」心が安まるおもいを致しました。心からお見舞い申し上げます。本題から一寸それましたが、合同交礼会は、出席者の中の最年長者、釧路卒業大先輩の乾盃ではじまり、万才三唱(時にはその人の得意の方法)は、江南の最年長者が取仕切和事が慣例になっています。(今年には釧路19期神本不二家先輩でした。)

二次会には全員参加、最後は私が殆んど忘れかけた三々七拍子の拍手で幕を引いています。今年六月七日(日)、湖陵関係者のゴルフ・コンペを雨中決行しました。七六才の仁平先輩(釧路17期)も健在です。最後になりましたが本部同

窓会の益々の御発展と皆様の御健勝をを祈念申し上げます。



在札釧路会前会長

青木 馨氏を偲ぶ

釧路で開かれる夏の湖陵同窓会には毎年必ず参加され、来賓挨拶は愛語をもって述べられる、あのお姿も、ゆるやかな語調の、あのお声も、今夏再び見聞できなくなりました。

去る五月四日早朝、突然に幽明境を異にされたためです。吉江奥様にお伺いすると朝起こしにいかれたが急性心不全のため、ことばを交わす刻もなく札幌の自宅で逝去されたとのこと、湖陵同窓会を心の據りになされた方だけに、愛惜の念一入であります。

大正10年弟子屈町に生をうけ、学校を卒業後昭和12年釧路へ転住、翌年自転車卸売の青木商會を設立され、ご存知の如くその後スズキ系のバイク・オートバイ類の自動車販売に進出、常に「誠・愛・友」の精神と洞察力をもって事業を広げ、近年は抱負も深く札幌へも出られ一人あり釧路のアラキキとして市内繁華街に、料飲店、遊戯場など商事グループの業績拡大に尽力、さらに在札湖陵会員として活躍、在札釧路会会長として一昨年まで、郷土の発展と母校の進展を常に祈念すると多くの会員の親睦融和に心がつつとめられたとお聞きしております。

一期一会、縁あってご子弟の長女千鶴子さん・長男健次君の担任として永くご交誼賜りましたことに深謝し愛別離苦の気持で、茲に謹んでご冥福をお祈りしますのみです。(同窓生 上岡記)

奥田 達也(鋼高1期)の

誠愛勇から

丹葉節郎の巻

(鋼中8期)



旧 鋼路
新聞社

復元に命賭す

人生の節目を大切に

を提出したものは、わが新築の社屋なり」と時の編集長が誇った明治四十一年一月完成のモダンな建物。それはその一月二十一日に記者として迎えられた石川啄木の活躍した舞台なのだ。

解体を前に、時の丹葉公民館長は、ほかの場所に移転して復元し啄木記念館として残すよう山本武雄市長に協力を要請、各関係者へも働きかけた。しかし財源措置ができず、すべては消え去った。

「三十二年十一月まで道新で使用したが、北大通一丁目に移転し、

「この社屋が解体と決まったその瞬間から今日まで、一枚のレンガにも注意を注がれ、それを我々に何回連絡してくれたか分からない」と。オープン祝いのテープカットをした丹葉は、そのテープを押し戴いて、感慨深く胸に納めた。

彼の熱意、継続力には、つきあわされる人々があきれかえる程なのだ。偉い人だろうが、多忙の人だろうが、遠慮会釈のあろうはずがなく何度でも訪れて談じ込む。その情熱。それは熱血漢のものなのだ。

東京市で市長表彰を、名譽年金表彰を受ける立派この上ない実績をあげ、鋼路の丹葉」といわれたが、敗戦で、大葉毛へ帰った。「迷った時、重大な転機」損せよ」と父国一郎にいわれた。その通り、トンケシの浜辺にある消防番屋を借り、炭俵編みをした。

教え子や戦地へ、満蒙義勇軍へ送り出し、昨日まで鬼畜米英といひ、今更に、敵の文化、民主主義を褒める「そんな教育を私が出来るか」己れに忠実な節郎。そんな彼の真似を一体、誰が出来るか。かつて書家の山田北翠(鋼高二期)の受賞祝賀会で、

「人生にとって、節目」は大切に「するものだ」といわれた。何にでも顔を出す丹葉を、一面バカにしていた私は、ハツとした。丹葉節郎の眞摯な気性をそこにみた気がしたからだ。また拙著『鋼中物語』が上梓された出版記念祝賀会の席上では、私に「鋼中博士」との称号を授けられた。まことに奇抜なアイデアであり、嬉しく受けたのである。金銭にこだわらない、その飄飄たる風格、風貌は誰からも愛される枯淡な味わいがある。「他人のいるところで、校歌や応援歌を斉唱しないことだ」とも。

小降りの雨もあがり、霧が立ちこめる五月三十一日の午前九時半。旧鋼路川左岸の大町二丁目に啄木記念館たる旧鋼路新聞社屋を復元した「港文館」の落成記念式典が行われた。

市内の名士多数が出席した。だが一番の功労者、そして最も感慨の大きかった人。それは丹葉節郎、その人であった。

今をさかのぼる二十九年。昭和三十一年一月二十五日に赤レンガの旧鋼路新聞社屋は解体された。「天地一白の間に紅梅一朵の美観

空き家になった七年間のうちに対策をたてておれば……」と啄木を偲ぶ人々を悔しがらせた。「赤レンガだけでも復元のために残してくれ」と丹葉は涙ながらに訴えた。それができなければ切腹をささえ覚悟した丹葉節郎。

石川啄木像の建立に奔走し、赤レンガの復元を悲願として設計図を残した丹葉の執念。創刊四十五周年の記念事業とした鋼路新聞社社長片山睦三が、あえて丹葉の名をあげて讃える。

反アバウトヘイト、ユネスコ：などなど会長の職にあること、長さなど数はあきればかり。それをまた、誰よりも忠実に、積極的にはたしている。鋼中卒業後すぐに弟子屈の代用教員となり、子供たちとの楽しい教員生活が彼を教職へ志す機会となった。次の鳥取小代教から札幌師範へ入学。その後、上京し教鞭をとるかたわら青山師範の専攻科。燃える求知心、溢れる学習欲は、学童へも感化した。

御婚礼・御宴会・御会合・御宿泊

政府登録国際観光ホテル・日本ホテル協会会員

鋼路パシフィックホテル

中村 隆(鋼中27期)

鋼路市栄町2丁目6番地 ☎24-8811

れんが屋★AM 11:00～PM 11:00

トロイカ★AM 8:00～PM 11:00

パシフィックイン・八まき・八宝園

当番期紹介

(湖陵高校21期) 宮下輝男



昭和四十四年三月、在校生の「蛍の光」に送られ、我が湖陵の学舎を後にしてから既に二十四年が経ち、二度目の幹事を迎えることになった。

くまざさへの寄稿を依頼されて、改めて本箱の片隅に挟まっていた卒業アルバムを開いてみた。我々の学年はA組からI組までの9クラスで、現在の理数科はまだ新設されておらず、全クラス普通科であり、3年間クラス替えもなかった。

我がクラスは転入・転出はあったもののアルバムには四十七名のクラスメートの写真が載っていた。青春の一時期を共に過ごした仲間のうち、既に四人はこの世を去

ってしまっている。この場をかり改めて4人の冥福を祈りたい。アルバムのページをめくっていると行灯行列、修学旅行、体育祭そして文化祭がまるで昨日のように記憶が蘇ってくる。

また、我々が三年間通った富士見町の一角に建てられていた校舎も移転改築され、数年前に取り壊されて今は無い。校舎が解体される数日前には、十七期の先輩方が中心に企画した「サヨナラ湖陵祭」が盛大に催された。

二日間学校を開放し、模擬店を開き、赤々と燃え上がるキャンブファイヤーを囲みながらフォークダンスを踊り、当事を思い出しながらの青春の三年間に多くの思い出を与えてくれた我が学舎に別れを告げた。

この度の当番期に当たり、我々も四十代を迎えて公私にわたり多忙な毎日を送っているが、一声で各クラスから数名がすぐ集まり、まるで皆が学生時代同級生であったかのように打ち明け、何が難で

も同窓会を成功させるべく時には口角泡を飛ばしながら頑張っている姿を見て、言葉では言い表

せない嬉しさを感じ、大役を仰せつかった緊張感以上に同期の仲間と共に、この事業ができたことに感謝しています。

また、十一期の当番期の先輩の皆さんには大変ご苦労をおかけしています。

同窓会当日は、我々二十一期と若き溢れる三十一年の後輩の諸君の力を借りて、必ずや同窓会に出席された皆様



に楽しい一時を過ごして頂けるものと確信致しております。最後に今回同窓会に出席された先輩・後輩の皆さんと来年の同窓会で、またお会い出来ること楽しみにペンを置きます。

幸三 ゴルフショップ

新橋大通 5 - 1

代表 宮本英司

——先輩、後輩よろしく頼みます。湖陵17期——

責任をもって



古川 勇

僕が釧路開発建設部に入ってから三カ月、やっと職場の雰囲気にも慣れはじめ、自分の仕事も、少しずつですが、きちんとこなせるようになってきました。

入ったばかりの頃は、何を言われても、まったくわからないことばかりで、覚えなければならぬことの多さに頭が痛くなりました。しかし、職場の先輩方に、少しずつ色々なことを教えてもらったので、自分にとっては、とても勉強になり、大変良かったと思います。

僕の仕事は、普通の事務の仕事とは、少し違った仕事なので、ここで詳しく説明しても誰もわからないと思うので書きませんが、多額の金銭が動く仕事も少ししているので、自分の仕事に責任をもたなければいけません。はっきり言って、金のからむ仕事でのミスは絶対に許されません。他の仕事でも、ミスは許されないうし、同じことを何回も職場の人に聞くことも

できません。高校生の時は、こんなことはありませんでしたが、社会に出ると、こういうことは当り前のことで、できなければ、社会人失格なのです。とっても、厳しいのです。お金をもらって働くのは、とても大変なことなのです。だから、これから湖陵高校を卒業して、就職しようと考えている人は、高校生のよう甘い考えでは、とても社会には通用しないということだけは、頭に入れておいて下さい。

こんな書き方をすると、就職なんかしたくないと思うかもしれませんが、大変なことばかりではありません。職場の人との仕事以外

社会人となって

社会人一年生



泉 真紀

約四カ月前に、湖陵高校を卒業してから、早くも最初の夏を迎え

でのつきあいは、以外と楽しいことも多いです。それに、仕事以外でのつきあいは、お互いの信頼関係を深めたりして、仕事にもプラスになるのです。

つまらないことだらけだと書いてしまいましたが、僕はこれから一人前の社会人になるためがんばっていいこうと思っていますので、みなさんも、自分の目標に向けて是非ともがんばってください。



ようとしています。

私は湖陵高校を卒業後、釧路地方検察庁に就職し、検察事務官として毎日職務に励んでいます。まだまだ緊張した毎日を過ごしていますが、少しずつ職場の雰囲気にも慣れ、今は毎日が勉強で、上司や先輩に指導を受けながら、社会人としてのスタートを切ったところです。湖陵高校は、道東有数の進学校であり、九割以上が進学を希望していく中で、私はみんなよ

り、一歩先に就職を選び、社会人一年生として、社会の仲間入りをしました。社会の仲間入りをしたと言っても、まだ三カ月を過ぎたばかりで日も浅く、実際の社会というものはやはり今までの学生生活とは大きな違いがあり、多くの厳しさをやっとなんと感じ始めたところで、まだまだ慌ただしい日々を送っています。

社会人としての生活が始まった数カ月前、多くの不安と緊張、そして新しい世界への期待を胸に秘めながら、庁舎までの道を通い始めました。学生時代、たくさんの仲間と困まれ、どんな事でも自由にでき、ある程度のおがままも通ってしまうような生活を送っていた私には、「社会」の厳しさと、自分の行動についての責任の重さが肩に重くのしかかっているような感じがしていました。今は少しずつ肩の力も抜けていき、上司や先輩の親切な指導を受けながら、一日も早く一人前の社会人となり、自分の仕事に自信を持てるように、毎日仕事に励んでいます。

これから、学生生活で経験した多くの貴重な体験や思い出を大切に、立派な社会人になるだけでなく、一人の人間として、一回りも二回りも大きくなることができるように、一歩一歩確実に歩んでいきたいと思っています。

御卒業・御入学の喜びを1枚の写真に……

湖陵・江南・北陽・星園・短大高校他
市内小中学校卒業アルバム専属作成

株式会社 工藤写真館

工藤寿男(釧中26期)

釧路市南大通5-3-7 TEL 41-5751

駐車場(20台収容)完備

事務局だより

同窓会々員の皆様におかれましてはご健勝にて毎日をお過しのことと拝察申し上げます。

また常日頃から同窓会に対するご支援・ご協力を賜わり衷心より厚くお礼申し上げる次第でございます。さて、月日の経つのは実に早いもので、平成四年度に私共十期、それから二十期・三十期のメンバーと共に総会並びに懇親会の準備をさせて頂き無事終了致したところですがもう平成五年度の総会が間近に迫って参りました。五月に本年度の当番期の三期合同打合せ会議を開催し、その後それぞれの当番期の方々が集まり、綿密な打合せを行ったところでございます。その結果七月一日に同窓会の責任幹事会を開催し、平成五年度の総会並びに懇親会の内容についてご審議を頂きさらに決定を頂いた所でございます。どうか八月八日は同窓生各位が大いに楽しみそして素晴らしい懇親会にしたいものだと考えております。

また各地の同窓会も活発に行な

われております。三月は十勝支部、四月は東京支部、そして六月には札幌支部とそれぞれ盛大に開催され、久本会長のお伴をしてお祝にかけつけ、同窓生の皆様がひとつになつて同校を偲び校歌を熱唱する姿を拝見し実に素晴らしい、これが同窓生の深い絆かなあ；とつくづく感じて参つたところでございます。

去る七月一日に開催された常任幹事会におきまして久本会長より、同窓会館建設に当り各期の常任幹事の皆様が建設準備委員会のメンバーになつて頂くようお願いし、ご承諾を頂いたところでございます。これからはいよいよ会館建設に向かつて出発する段階に参りました。しかしなんと申ししても同窓生一人一人のご尽力なくして会館の完成は考えられません。どうか皆様のご支援・ご協力のもとに一日も早く同窓会館が建設出来ますようくれぐれもよろしくお願ひ申し上げます。

お蔭様で東京始各支部の号に

も時期はいつか、予算はどの程度か、出来る限りの協力はするからがんばって建てなさいなどと激励のお言葉を頂いております。非常に嬉しくまた心強く感じているところでございます。そのようなことからいま会館建設へ向つて一歩一歩確かなものになっている状態でございます。会員の皆様にはいつもお願いごとばかりで誠に申し訳けなく思つておりますが今一度同窓会館建設のため、ご支援・ご協力を賜わりますようよろしくお願ひ申し上げます。

最後になりましたが、会員皆様のご健康を心からご祈念申し上げます。事務局だよりにてさせていただきます。

同窓会幹事長 関口 政司

編集後記

今年の一月十五日夜八時六分に発生した釧路沖地震から半年もたないうちに、七月十二日の夜半近くに北海道南西沖地震がほつ発した。

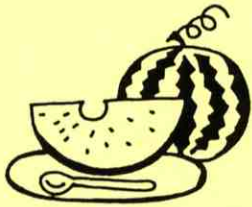
地震・津波・火災・ガケ崩れなど道内では戦後最大の惨事となり、奥尻島を中心に多くの住民が恐怖・地獄の夜に見舞われてしまった。

高台に避難できる高速リフトがあったら、ガケ崩れ災害救出機器があつたらといつても後の祭りなのでしょうが、海岸沿いに住む私達にとつて他人ごとではありません。死者・行方不明者のご冥福をお祈りいたします。(平野記)

くまざき編集委員会

編集委員長 上岡 信明
編集委員 奥田 達也

〃 平野清次郎
〃 石川 和男
同窓会々長 久本 甫
同窓会幹事長 関口 政司



釧路のおみやげに！

しあわせをお菓子にのせて



熊の手焼
せんべい

熊ささ



釧路市南大通2 ☎代41-2121